第3期 静岡市文化振興計画　概要版(案)

1. 計画策定の趣旨

第5次静岡市総合計画と、第2期静岡市文化振興計画の2023年度から2026年度までの進捗を踏まえ、第3期静岡市文化振興計画を策定する。

◆計画の位置づけ

「文化芸術基本法」第7条の2、「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」第9条に基づき「観光基本計画」「歴史的風致維持向上計画」「文化財保存活用地域計画」等、第5次静岡市総合計画の関連する個別分野計画と連携し策定するもの。

◆計画期間　2027年度～2035年度(9年間)

2. 第3期計画の方向性

(1)文化を取り巻く動向

・社会情勢の変化

人口減少・少子高齢化／文化の担い手不足／文化との関わり方の多様化

・文化の役割の広がり

観光・産業・教育・スポーツ等多様な分野との連携による新たな価値の創出／文化資源を活用した地域活性化

(2)第2期計画の成果と課題

◆【成果】市民の文化鑑賞・創作・参加等の増加

・文化鑑賞や創作・参加などの活動をしている

2021年　82.6%　→　2026年　86.1%(+3.5ポイント)

◆【課題】地域の魅力の実感、事業への参加、文化を通じたつながりの不足

価値観や、ライフスタイルの多様化、オンライン配信やSNS等の普及により、自宅で文化鑑賞をする市民が増加している。これにより、会場での鑑賞や文化活動に参加する機会があると思う人は、減少していると考えられる。

会場で文化鑑賞する人や文化活動をしている人ほど、地域の魅力を感じ、文化を通じた人とのつながりを感じている。このことから、会場での鑑賞や文化活動の減少が、地域の魅力や人とのつながりの実感が不足するという結果につながったと考えられる。

・地域の魅力を感じる市民

文化鑑賞した場合　52.8%(+13.4ポイント)
文化鑑賞していない場合　39.4%

・「人とのつながり」を感じる市民

文化活動した場合　84.7%(+59.2ポイント)
文化活動していない場合　25.5%

(3)第3期計画の方向性

①文化鑑賞から参加につなげる

鑑賞から参加へと文化との関わりを深められるよう、誰もがそれぞれの関心や状況に応じて、会場を含め多様な場で文化を鑑賞できる機会を拡大する。

地域クラブの取組により、青少年の文化活動を促進する。

②文化活動を継続的に行える環境を整備する

人、情報、場所、機会等を結び付け、活動者を支えることで、継続的に活動を行なうことのできる環境を整える。

③多様な主体による共働・共創を進め好循環をつくる

市民、文化団体、地域等が協働し、文化活動に関わる機会を広げ、共働・共創による効果を次の文化活動につなげる。

④文化と他分野との連携を価値創出につなげる

文化を観光・産業・教育・スポーツ等と目的や資源を共有し、それぞれの強みを生かすことで、新たな価値を創出し、地域の魅力や活力につなげる。

3. 計画の基本的な考え方

目指す姿　文化を通じて社会全体の共働・共創が広がり、心豊かに暮らせるまち

継続 基本方針1 市民が文化に触れる環境を整え、感性を育みます	施策の柱1	多様な文化や魅力的な体験機会の充実	基本施策1　誰もが多様な文化に参加し、人とつながる機会の提供 基本施策2　地域の歴史や伝統文化の継承と、活用によるまちづくり
	施策の柱2	文化活動を支える環境づくり	基本施策3　次世代の活動者・担い手の育成 基本施策4　文化と人をつなぐ情報発信と環境整備 基本施策5　文化活動を続けられる場と機会の充実
刷新 基本方針2 文化を通じた感動体験により、経済活動を促し、民間投資を呼び込む好循環を生み出します	施策の柱3	地域・企業との連携・協働による新たな価値の創出 文化共創プロジェクト	基本施策6　祭りやイベントを通じた地域や企業との連携・協働と文化交流の推進 基本施策7　分野横断による新たな価値創出、地域活性化
	施策の柱4	誰もが文化を楽しみ、世界とつながる環境づくり	基本施策8　国際フェスティバルの開催と国際文化交流 基本施策9　市内に拠点を置く高い専門性を持つ文化団体との連携・協働

4. 計画の成果指標

4つの指標により、各施策の柱の成果を把握する。施策の柱を基本指標と複数の補助指標により成果を多面的に捉える。

成果指標	現状値(2026)	中間値(2030)	目標値(2035)	基本指標(◎)・補助指標(○)の位置づけ			
				施策の柱1	施策の柱2	施策の柱3	施策の柱4
年間に会場で文化鑑賞をした市民の割合	67.7%	72%	76%	◎			○
年間に文化活動(体験・創作・発表・指導・運営・支援)をした市民の割合	15.1%	23%	30%	○	◎	○	○
事業費の自主財源比率(参加費・売上・協賛等の割合) ※	(調査は前年度決算) 45.0%	50%	60%		○	◎	○
誰もが文化に参加できる環境が整っていると思う市民の割合	20.3%	35%	50%	○	○	○	◎

※市費以外の財源を確保でき、財源の確保・拡大が事業の継続・充実・発展につながる事業であり、かつ、財源確保を求めても保存・継承、教育的配慮等の政策目的が損なわれない事業を対象とする。

5. 文化共創プロジェクト

文化の力を様々な分野に活かし、新たな価値を創出する取組を「文化共創プロジェクト」として位置付け、取り組んでいく。

連携する分野	取組の方向性	生み出される価値・効果
文化 × 観光	文化資源を活用した体験・周遊を展開	文化を目的とした観光誘客、文化資源を活かした地域消費の創出
文化 × スポーツ	スポーツイベントで文化体験を展開	文化に関わりのなかった層との接点創出、新たな文化参加者の創出
文化 × 歴史	歴史文化資源を活用した文化活動・まちづくりを推進	歴史文化資源を活かした人材の育成、歴史を核とした地域価値の創出
文化 × 生涯学習	学びの成果を活動・発表へ展開	学びを活動へつなぐ新たな担い手の創出、市民の知識や経験を活かした地域活動の創出
文化 × 市民活動・地域活動	市民活動及び地域活動と文化活動の連携を促進	分野や世代を超えた共創の創出、地域課題解決につながる新たな活動の創出

6. 文化の好循環例

文化の広がりを地域の魅力や経済活動へ波及させ、その成果を次の文化活動へ還元する。

